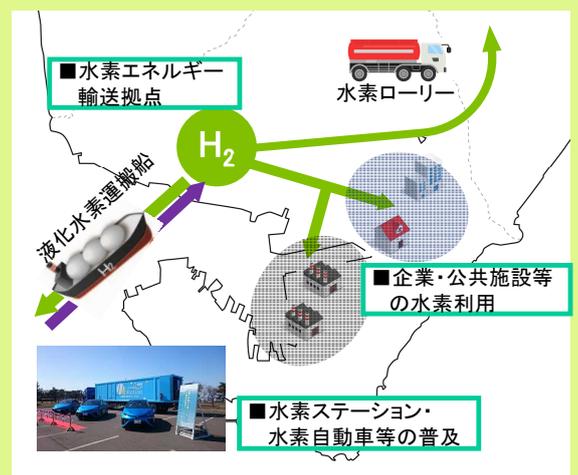


室蘭港における洋上風力発電拠点化等に向けた支援

- 現状**
- 2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、近年、日本国内において急速に洋上風力発電の案件形成が進捗しています。なかでも風況に恵まれている北海道の海域は、施設の大規模導入に加え、本州方面への送電も検討されています。
 - 室蘭港は、その天然の良港たる形状や、背後地における鉄鋼・ものづくり産業の集積といった特性から、洋上風力発電関連部材等の生産拠点化が進展しつつあり、加えて、東北～北海道の海域における今後の洋上風力発電施設の建設にあたっては、仮組立等を行う基地港湾として室蘭港の利用検討が進んでいます。
 - 水素・アンモニア等の次世代エネルギーの活用や輸送に関する検討が全国的に進んでいます。令和4年度に、室蘭港カーボンニュートラルポート（CNP）形成計画を策定しており、室蘭港は、港湾内に水素等の輸送・貯蔵に適した土地が確保可能である上、大口需要ポテンシャルを有する鉄鋼・ものづくり産業が立地していること等から水素等の輸送ハブ拠点およびエネルギー拠点化を室蘭港の目指す将来像として掲げております。

- 課題**
- 室蘭港が洋上風力発電産業の拠点としての役割を果たすためには、利用予定地における土地区画の変更や、既存利用者への代替施設の確保等、港湾の利用再編が必要です。
 - 次世代エネルギー大量消費時代への移行に向けて、各港湾に存在する既存ストックや既存の利用状況なども考慮しながら、水素輸送拠点化を具体的に進める必要もあります。

- 要望内容**
- 洋上風力発電関連産業の集積による生産拠点化に向けた支援
 - 洋上風力発電施設建設時における部材の事前組立・積出拠点化に向けた支援
 - 水素等の受入、貯蔵、積替拠点化など室蘭港CNP形成計画の実現に向けた支援



室蘭港を活用した水素輸送拠点のイメージ

- 事業効果**
- 室蘭港が、我が国の洋上風力発電産業を支えるとともに、水素の国際輸送・貯蔵拠点となることにより、「エネルギー基地北海道」の実現に貢献します。